

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日： 2025 年 1月 8 日

事業所名： 放課後等デイサービスくら

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。
評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分		チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価					評価を踏まえた 改善内容・改善目標
			はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	保護者の方のご意見	
環境・ 体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	4			定員に応じたスペースの確保はできている。	15	4		1		活動内容、遊びの様子に応じたスペースの使い方の工夫を続ける。
	2	職員の適切な配置	4			シフト表を掲示し、各自が確認している。	18			2		利用日の職員配置を掲示する。
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がいの特性に応じた設備整備	4				20					
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	4			日々活動後の清掃、機器を使用 しての空調をし、清潔な環境整備に努めた。	19	1				細かな道具の整理方法を工夫する。
業務改善	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）への職員の積極的な参画	4									
	2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施			4							第三者評価を実施について検討する。
	3	職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	4			動画、書物、研修会等により、全職員が機会を確保できるようにした。						
適切な支援の	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	4				20					
	2	放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	4			5領域の支援に対応した計画書の作成を行った。	20					

区分		チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標
			はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	
提供	3	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせた放課後等デイサービス計画の作成	4			学習支援、製作を中心とした個別活動、ゲーム、イベントを中心とした集団活動を行った。					

区分		チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価					評価を踏まえた 改善内容・改善目標
			はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	保護者の方のご意見	
適切な支援の提供 (続き)	4	放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	4				20					今後も個々に合った支援方法を工夫していく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	4			学習、製作、ゲーム等、担当者が中心となり計画し、チーム全体の理解を図り、実施した。						
	6	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	4			個々の状態に応じたテーマ、季節や行事に応じたテーマを考え活動した。	20					
	7	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	4			学校がある日とお休みの日、長期休暇に対応し、活動内容や場所、時間を工夫した。						
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	4			当日の利用者、職員の動きが確認しやすいよう書式を整備した。						
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	4			個々の気付きを自由に話せる場を大切にしている。						
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	4									
	11	定期的なモニタリングの実施及び放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	4									
関係機関	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	4			各月開催の定例会、サービスに関する担当者会へ管理者・児発管が参加した。						

区分		チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
			はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
との連携	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施				対応が必要な利用者がいない。						
関係機関との連携（続き）	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備				対応が必要な利用者がいない。						
	4	児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	2	2		地域の学校、特別支援学校との情報共有が不十分だった。						今後も学校へのお迎え時の声かけを続ける。保護者の要望に応じて話し合いの機会を持つ。
	5	他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供	4			事業所を退所し、作業所の利用が始まった利用者に対しては、面談や相談員との話し合いにより、円滑な移行に努めた。						
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	4			積極的に研修会へ参加した。						
	7	児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供	2	2		児童クラブ主催のイベントへの参加、地域の高校生との野菜植え、ゲーム交流会を行った。	12	1	1	6		長期休暇中、ゲーム等を一緒に楽しむ児童クラブとの交流イベントも検討する。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営		3	1	夏祭りでは、家族、第三者委員相談員等を招待し、利用者との交流を行った。 活動を知っていただく機会として作品掲示を行っている。						現状の施設で地域住民を招待することは難しいが、活動を理解していただけるような機会を検討する。
	保護者への説明責任	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	4				19	1			
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	4				20					

区分		チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価					評価を踏まえた 改善内容・改善目標
			はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	保護者の方のご意見	
連携支援	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	4			困り事に対して、懇談やメール等で具体的な対処方法をアドバイスするよう努めた。	15	3		2		今後も保護者の状況に寄り添った具体的なアドバイスに努める。
保護者への説明責任・連携支援（続き）	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	4				20					
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	4				20					
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援		1	3	2日間に分け、希望者全員が参加できる夏祭りを実施した。利用者の家族が一緒に楽しめる機会となった。	10	3	2	5		共働きの家族が多く、保護者会の開催は難しいが、利用者と一緒に楽しめるイベントの中でさらに交流を深める内容を工夫する。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	4				16	1		3		特に対応が必要な苦情はなかったことを保護者へ報告する。必要時にはマニュアルに従い対応する。
	8	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	4			利用者に対しては、掲示、図や絵を利用しての情報伝達を活用した。保護者に対しては、メール、お便りを使い、いつでも情報を確認できる方法を利用した。	19	1				よりわかりやすいメールやお便りの書き方を検討する。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	4			年3回のくじらだより、活動の掲示、HPにより情報発信に努めた。	19	1				よりわかりやすいメールやお便りの書き方を検討する。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	4			職員に対しては、守秘義務契約を結んでいる。利用者に対しては、写真撮影、お便りでの利用について同意書をとっている。	19			1		職員の個人情報取り扱いについての意識を確認する。
非常時等	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	4			マニュアルの掲示、職員間の協議により事業所内での確認をした。	16	1		3		避難訓練の報告、警報対応文書の配布、安全計画の掲示は行っているが、保護者全員が確認できる方法を検討する。

区分		チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価					評価を踏まえた 改善内容・改善目標
			はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	保護者の方のご意見	
常 時 の 対 応	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	4			火災、地震、不審者対応避難訓練、非常時体験(今年度は食器の工夫)を実施し、保護者へはお便り等で報告した。	16	1		3		非常時に対応できる力となるよう、今後も体験学習を行い、保護者へ報告する。
非常時等の 対応（続き）	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	4									今後も研修会への参加、事例検討により、意識を高める。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	4									対応が必要な事例があった時は、懇談時に対応方法を話し合い、同意を得て、計画書に記載する。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応				現在対応の必要な利用者がいない。必要に応じて対応する。						
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	4			ヒヤリハット事例ではないか、日々職員間で確認している。事例については、職員会で対応を確認した。						日々、安全な活動を行う意識づけとして作成、事例検討を続ける。